



ポール両手に健康づくりの輪

第2回ノルディックウォーキング教室・11/30

No.5

総領自治振興区主催の「第2回ノルディックウォーキング教室」が、なかつくに公園と田線の里スポーツ公園で開催され、地域の方々に参加しました。

この教室は9月26日に健康・体力づくりを目的に行われた「ノルディックウォーキング講習会」を、今後も開催してほしいという地域の声を受け、始めました。

インストラクターの妹尾奏子さん指導のもと、2kmのコースを専用のポールを使いながら、自分に合ったペースでリズム良く歩きました。参加した60代の男性は「最初はポールの使い方が難しかったが、慣れて来ると楽に歩くことができた」と話していました。



▲ポールを使って歩く参加者

地域の宝を次世代に継承を

第6回庄原市民俗芸能大会・11/21

No.4

市内の民俗芸能保有団体が一堂に会し、国・県・市指定の無形民俗文化財を公開する「第6回庄原市民俗芸能大会」が庄原市民会館で開催され、市内外から約600人が来場しました。

この大会は、市内それぞれの地域で守り継がれてきた民俗芸能を保存、伝承するとともに、民俗芸能への関心を深めるため、庄原市民俗芸能大会実行委員会が開催しています。今回は民俗芸能保有団体5団体とともに、「未来へ繋ぐ」をキーワードに、若い世代4団体が特別出演しました。来場者は、普段は観る機会が少ない民俗芸能をたっぷり堪能していました。



▲比婆荒神楽子ども神楽塾

期待の若手3選手と交流

カープ選手とふれあいイベント・11/28

No.6



▲じゃんけん大会の様子。右から鈴木選手、野間選手、飯田選手

庄原市カープ応援隊が主催する「カープ選手とふれあいイベント」が、ジョイフルながえと国営備北丘陵公園の2カ所で開催されました。

この日は広島東洋カープの鈴木誠也外野手、野間峻祥外野手、飯田哲矢投手の3選手が登場。選手のサイン入りグッズをプレゼントする「じゃんけん大会」のほか、選手と記念撮影が行える抽選会やトークショーが行われ、多くのファンを楽しませていました。

庄原市カープ応援隊の山根英徳さんは「選手とカープファンが間近に交流できるイベントを庄原市で実施できたことは大きな成果。今後も継続していければ」と話していました。



▲ジョイフルながえには約700人のファンが集まる

貴重な近代遺産として登録文化財に答申

旧山本鉄工所建物群・11/20

No.1

東城町で創業のヤマモトロックマシン（旧山本鉄工所）の建物群が11月20日、文化審議会から登録有形文化財に登録するよう文部科学大臣に答申されました。

ヤマモトロックマシンは100年前の大正4年に初代社長が山本鑄造鉄工所を開いたことに始まり、削岩機の製造で昭和初期に急成長を遂げた会社です。

今回答申された建物は、工場建物群と自治寮建物群で、いずれも昭和初期に建築されたものです。特徴は、いずれも洋風建築を採用していることで、特に第一工場は当時の建築では珍しい西洋の教会建築様式「バシリカ式」を採用しています。また、工場内部は栗材を使用し、80年経過しても現役の工場として稼働しているなど、貴重な建物といえます。

11月3日には現地公開が行われ、多くの人が見学に訪れました。専門家は「この地域で和風建築が多かった中、当時突如として現れた洋風建築の数々は、新進気鋭の実業家の思いが伝わる建物群であり、昭和初期の近代遺産の中で、官営工場以外では他に類を見ない極めて貴重な建物だ」と話しています。



▲工場建物群（第一工場前）



▲自治寮建物群（家族寮前）

熱気あふれる白熱のラリー

庄原さくらオープンラジボール卓球大会・11/17,18

No.3

「第3回庄原さくらオープンラジボール卓球大会」が庄原市総合体育館で開催され、中国四国地区を中心に150人が参加しました。

混合ダブルス、男女各ダブルスの各部門で、それぞれ年代別に分かれて熱戦が展開されたほか、今回からシングルス戦に代わり男女4人で構成する団体戦が開催されました。チームごとに競技する選手への熱い声援が送られるなど、会場内に熱気があふれていました。

参加者からは「この大会の開催を毎年楽しみにしている。来年以降もぜひ2日間で開催してほしい。夜のイルミネーションも楽しみのひとつ」と話していました。



▲4ミリ大きいボールで熱戦を繰り広げる選手

たすきをつなぎ庄原を力走

第64回庄原市スター式駅伝大会・12/6

No.2

庄原に冬の訪れを告げる恒例の庄原市スター式駅伝大会が、上野総合公園陸上競技場を発着点で開催されました。

今年は、中学、高校、職域、一般など7部門に、87チーム522人が出場し、6区間、男子16.0キロ、女子15.6キロで健脚を競いました。

天候にも恵まれたこの日、1チームの大会新記録と4部門で9つの区間新記録が出る白熱のレースが展開されました。ランナーは沿道からの熱い声援に背中を押されながら1本のたすきをつなぎ続け、師走の庄原路を力走しました。



▲力走する市民ランナー



ドライバーに安全を呼びかけ

街頭指導で交通事故防止を啓発・12/5

No.8

西城町平子の夢の橋周辺で、年末事故防止県民総ぐるみ運動の一環として特別街頭指導が行われました。

街頭指導では、通りかかった運転中のドライバーに、赤・黄・青の信号を模した三色の安全餅を200セット配布。「余裕を持った安全運転をお願いします！」とドライバー一人一人に声をかけ、安全運転と交通事故防止を呼びかけました。

特別街頭指導に参加した方は「これから年末にかけて何かと忙しくなる時期なので、余裕を持った運転を心がけていただき、交通事故に遭わないようにしてもらいたい」と力を込めていました。



▲安全餅などを配り交通安全を呼びかけ

りんご・大根のおいしさをPR

高野小学校児童が販売体験・11/27

No.7

高野小学校4・5年生の児童34人が、農家作業体験で作ったりんごと大根を、道の駅たかので販売しました。

子どもたちは、高野のりんごと大根のおいしさを知ってもらおうと、この日のためにチラシやポスター、レシピ本も作成し準備をしてきました。当日は、来訪者にチラシなどを配りながら積極的に声をかけ、収穫したりんご約170袋(1袋4～5個入り約1kg)と大根約300本を販売しました。農家作業と販売の体験をした松下千奈都さん(5年)は「販売の時は買ってもらうために頑張って声を出して呼びかけをした。農家の方は大変な思いをして作られていることがわかった」と話していました。



▲りんごを販売する子どもたち

展示・発表で交流を深める

みんなの文化発表会・11/29

No.10

「第4回みんなの文化発表会」が比和自治振興センターで開催されました。

このイベントは、地域住民を中心とした団体の日ごろの練習の成果を披露する場として開催され、太極拳や和太鼓の演奏、生け花や地域の子もたちの作品展示なども行われました。バザーでは、この時季にぴったりのおでんが販売されたり、手作り雑貨などが販売されるなどして賑わいました。また、中先途婦人部が無農薬栽培のエキナセアを使用したハーブティーの試飲販売を実施。風邪やインフルエンザ予防にも効果があると言われていたことから、多くの人が興味を示していました。



▲手作り雑貨のバザー

児童の支援で楽しい時間を共有

口和子育て広場でクリスマスリース作り・11/26

No.9

口和子育て支援センター主催による『子育て広場』が口和老人福祉センターで開催され、母親14人が参加しました。

今回は講師の桑野歩さん指導のもと、家に飾るクリスマスリースを作成。リース作成中には、子育て教室の研修に来ていた口北小学校3・4年生10人が、参加者の子どもを預かりお世話をしました。泣いたり、動き回ったりする子どもにも悪戦苦闘する小学生の支援のおかげで、リースは無事完成しました。主催者の今井紗弥さんは「作ったリースを家に飾り、家族で楽しいクリスマスを過ごしてほしい」と話していました。



▲うまく出来るかな～